川内原子力発電所対策調査特別委員会記録

○開催日時

平成25年9月24日 午後3時42分～午後4時7分

○開催場所

第3委員会室

○出席委員（10人）

委員長	橋口博文	委員	川添公貴
副委員長	成川幸太郎	委員	福元光一
委員	上野一誠	委員	中島由美子
委員	井上勝博	委員	帯田裕達
委員	佃昌樹	委員	森満晃

○事務局職員

事務局長	田上正洋	課長代理	南輝雄
議事調査課長	道場益男	議事グループ長	瀬戸口健一

○審査事件等

- 1 副委員長の辞任許可
- 2 副委員長の互選

△開 会

○委員長（橋口博文）ただいまから、川内原子力発電所対策調査特別委員会を開会いたします。

さきほど川添副委員長から、副委員長の辞任願が提出されましたので、この件について審査をお願いします。

ここで、辞任願を配付します。

[辞任願の写しの配付]

△副委員長の辞任許可

○委員長（橋口博文）それでは、副委員長の辞任許可を議題とします。

本件については、川添副委員長から委員長に対して、副委員長の辞任願が提出されており、一身上の都合により副委員長を辞任したいとのことです。

ついでに、副委員長の辞任許可についてお諮りします。

願ひ出のとおり、副委員長の辞任を許可することに、御異議ありませんか。

○委員（井上勝博）この文書を見ますと、「一身上の都合」を消して、「により」というのを消して、何だろうなど。まず、その疑問があるんですが、何ですかね。どういうものなんですかね。

○議事調査課長（道場益男）辞任願が標準様式を作成しております、「このたび」以降の分は、例えば、一身上の都合とか、括弧書きで入れたものを標準様式として持つてるんですけども、そのまま標準様式を使われた形でありましたので、括弧書きは間違いということで、横線が引いてあると理解してください。

○委員（井上勝博）公文書ですから、ちょっとおかしい書き方になってるなというふうに思ったんですが。

それとですね、やはり全協のときにも言いましたけれども、本人から、経過とそしてなぜそういうことになったのかということについては、きちんとしてもらわないと、いけないんじゃないかと。その辺については、どうなんですかね。本人に聞く機会はあるんですか。そういう経過とそして本人がどういう反省をしているか。新原議員から言われて、陳謝されたという話は聞きましたけれども。本人が本当に責任を感じているのかということとは聞いていないと、ただ辞めるということでは、納得できないと思うのですが。聞く機会はある

のですか、この特別委員会で。

○委員長（橋口博文）今、井上委員から、本人から経緯を話してくれということでありますけれども、みなさんいかがなものでですか。

○委員（福元光一）先ほど総務文教委員会も開かれて、現在は、除斥対象になっておられますけど、委員の方々が辞職願を認められました後に、本人がここに出席されて、そして皆さんに迷惑を掛けましたという挨拶がございましたけど。

川内原子力発電所対策調査特別委員会ではどうなりますか分かりませんが、今後また出席されて、迷惑掛けましたという挨拶をされると思います。はい、以上です。

○委員（井上勝博）やっぱり辞任ということで、本人は責任をとるということなのですが、別に私は当然だと思うんですけども。ただ新原議員の報告を聞いてそう思うということであって、本人がですね、どの程度、反省をされているのかということも含めた弁明をしていただかないで、ただもう辞めるということを言ってるんだから、それを認めてくださいというふうになるとですね、ちょっとまた私、違和感があるというか、胸に引っかかるものがあるんですよ。本来ならば本人がきちっと言うべきところをなぜ言わないのか、ということなんですよ。

○委員（上野一誠）議事運営上、整理をしておきたいんですけど。井上委員の主張もよく分かります。あとは委員会で呼ぶか、呼ばんかの問題です。決をとる前にですね。新原議員が言われたのは、議会運営委員長としての、やっぱり報告というふうには私は受け止めました。

したがって、経緯をずっと言いましたので、より中身を固有名詞まで挙げて、具体的に言われたので、十分中身は、僕は理解しました。したがって、本人もそのことについては、一応認めたという形になって、こういう形になっているので、後はですね、一応これについての取扱いをしてもらって、その後、また本人もいろんな異があれば言うでしょうし。私はもう議運委員長の経緯をもってですね、了とすればいいんじゃないかというふうに思いますけどね。

○委員長（橋口博文）ほかにはありませんか。

○委員（佃 昌樹）詳細にですね、議運の委員長の方からありましたから。その件について、本人も経過を認めた形になってるわけですよ。そ

れをさいもで引っ張り出して言えということは、むしろ違和感を感じる。だから、当然、本人が自主的に出てきて言いましょうというんだったら別だけれども、経過を一旦説明されて、そのことについてはすべて了解をしてるというふうに承っていますので、これ以上の必要はないというふうに思います。

○委員（成川幸太郎）私も、辞任願とか一般の企業における退職願というの、解雇でない限り、こういった事情でそのときに受けるか受けないかで、そのときまでにその事情は詮索すべきで、こうして出た以上は、これについてのみ受けるか受けないかを決めればいいんじゃないかというふうには思います。今、お二人が言われたように、その中身は分かって本人もあえてそれを否定されていらっしゃらないわけですから、この場で本人から聞くというのはやっぱり無理があるような気がします。

○委員長（橋口博文）今3名の方々から、全協の中で議会運営委員長の説明があって、それでほとんど理解してるということでもありますから、そういうことでこの取扱いについては進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思えます。また本人が後で出席されますから、そこでまた何かとあると思えますので御了解ください。

それでは、副委員長の辞任を許可することについて、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（橋口博文）御異議なしと認めます。よって、副委員長の辞任を許可することに決定いたしました。

ここで、川添委員に着席を求めます。

〔川添公貴委員着席〕

○委員長（橋口博文）川添委員に申し上げます。ただいま、副委員長の辞任が許可されましたのでお知らせします。

ここで、川添委員から発言を求められていますので、これを許可します。

○委員（川添公貴）今般、皆さん大変お忙しいところ、私のために大変御迷惑をお掛けし貴重な時間を浪費したことに對して深く陳謝申し上げます。本日は、そのような方向性を出していただき誠にありがとうございました。以上で終わります。

○委員（井上勝博）さきほど全員協議会の中で経過もお話しされずに辞めるといってお話しをされ

たわけですけど、やっぱり新原議員があれだけこと細かく報告はされたんだけど、やはり川添委員が今回の問題についてどういう状況の下で、新原議員の報告のようなそういう発言に至ったのかということについては、詳細じゃなくてもいいんですけど、やっぱりお気持ちとかそういうものを確認しておきたいというふうには思うんですが、川添委員の発言を求めたいと思うんです。

○委員（川添公貴）特別委員会の席なんで、議題として相応しくないと思えますんで、答弁は控えたいと思えます。それが1点。2点目、自分の気持ちとして全面的にああいう態度をとらしていただきました。詳細については、自分でお調べください。私の口から言うと、自己弁護になりますんで。自己弁護はしたくないって思ってます。そこはお察してください。以上2点の理由で、この場での発言は控えさせていただきたいと思えます。

○委員長（橋口博文）今、本人から話がありましたが、井上議員、それで納得していただきたいと思えますがね。

○委員（井上勝博）私がおかしいんですかね。自己弁護ではなくって、川添委員が今回のことについてどれだけ深く反省されているかということ、何を直接お聞きしたいということについては、何もその自己弁護とも何ともならないんじゃないでしょうかね。私はその辺がよく分からないですね。もし自分だったらというふうには思えますよ。やっぱり自分だったら、自分の責任できちっと釈明もして反省もするというふうには私はするだろうなと思うんですよね。もし川添委員にそういうことでこれ以上のことを言うという気持ちがないというのなら、私はそれでもうそういうことなんだというふうに理解します。

○委員長（橋口博文）以上で、副委員長の辞任許可を終わります。

△副委員長の互選

○委員長（橋口博文）次に、副委員長が欠員となりましたので、これより副委員長の互選を行う必要がありますが、続けてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（橋口博文）それでは、副委員長の互選を行います。

互選の方法は指名推選又は投票となりますが、

いずれの方法によるかお諮りします。

○委員（井上勝博）投票をお願いします。

○委員長（橋口博文）ただいま投票の声がありますので、副委員長互選の方法は投票により行います。この投票は会議規則第94条及び第95条の規定に基づき行いますが、委員会室の閉鎖については省略します。

ただいま出席委員数は10名であります。投票用紙を配付します。

[投票用紙配付]

○委員長（橋口博文）投票用紙の配付漏れはありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（橋口博文）投票用紙の配付漏れはないと認めます。投票箱を点検します。

[投票箱点検]

○委員長（橋口博文）異状ないと認めます。

ここで念のため申し上げます。投票は単記無記名であります。投票用紙に被選挙人の氏名を記載のうえ投票願います。

なお、この投票には委員長の職務を行っている者にも投票権がありますので申し添えます。

[投票]

○委員長（橋口博文）投票漏れはありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（橋口博文）投票漏れはないと認めます。開票を行います。開票立会人に、帯田委員、森満委員を指名します。よろしくをお願いします。

[開票]

○委員長（橋口博文）開票の結果を報告します。投票総数10票、有効投票5票、無効投票5票であります。有効投票中、成川委員5票、以上のとおりであります。

この選挙の法定得票数は2票であります。

よって、成川委員が副委員長に当選されました。成川委員に当選の旨を告知いたします。

副委員長は、副委員長席にお着き願います。

[成川幸太郎副委員長、副委員長席に着席]

○委員長（橋口博文）副委員長は、就任の御挨拶をお願いいたします。

○副委員長（成川幸太郎）皆さんお疲れ様です。凶らずも今回、薩摩川内市にとって一番大事な特別委員会であると私自身思っております。川内原子力発電所対策調査特別委員会の副委員長ということに仰せつかることになりました。

私はまだ1期目で、まだまだ委員会運営にも不慣れな部分があるんじゃないかと思いますが、これまで以上に一生懸命自己研鑽を重ねて、この対策委員会がスムーズに運営できるように一生懸命頑張って参ります。皆様方の御協力をよろしくをお願いいたします。

○委員長（橋口博文）以上で、副委員長の互選を終わります。

△閉会

○委員長（橋口博文）以上で、川内原子力発電所対策調査特別委員会を閉会いたします。

委員の皆さんは、御協力ありがとうございました。

薩摩川内市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

薩摩川内市議会川内原子力発電所対策調査特別委員会
委員長 橋口博文